

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 神奈川県教育委員会
2. 取組の名称 : 児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」をはぐくむ小中一貫教育

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

少子化等急激な社会の変化、小学校から中学校へかけての問題行動等の増加、小・中学校の連続的な学びの視点が教育活動や指導に十分には生かされていない等の課題を解決する一つの方策として小中一貫教育校の導入を図る。県として、小中一貫教育推進における市町村の多様なニーズに応えられるよう、支援の在り方（現状の詳細にわたる分析、データの把握、組織体制作り、教員の意識向上等）を整理し、市町村教育委員会への継続的な支援体制を整えるとともに、モデル校での取組の成果と課題を整理・検証し、県内に普及する。

(2) 事業の実施状況

○指定した小中一貫教育モデル校（中学校区）の取組について、情報を収集するとともに、モデル地区の実施委員会や合同研修会等に県の指導主事が参加し、具体的な指導・助言を行いながら取組を進めた。県内の6つのモデル地区ではその地域の特色を生かした取組を実践しており、小中の教職員の授業交流や地域や保護者への広報活動、児童生徒の交流など様々な具体的な取組が推進されている。

○小中一貫教育を行う市町村教育委員会の多様なニーズに応じ、継続的に支援するために県に小中一貫教育サポートデスクを設置し、小中一貫教育推進に係る情報収集と情報提供、また、「神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック」を改訂しホームページアップを行った。

○新任校長研修や、新任教頭研修、全県指導主事会議、県の教育課程研究会の中でも、県の小中一貫教育推進についての説明を行い広報に努めている。

○各モデル校でのアンケートや実地調査で得た情報を丁寧に分析し、課題や成果を整理し普及することを通して、取組をさらに拡充していく予定である。

(3) 事業の成果

○モデル校の取組や成果をまとめた「神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック」を改訂し、ホームページに掲載した。

○県外の先進地区を視察し、取組の成果や課題についての知見を得た。

○新任校長研修や、新任教頭研修、全県指導主事会議、県の教育課程研究会の中でも、県の小中一貫教育推進についての説明を行い、理解を促進した。

○小中一貫教育校連絡協議会や、小中一貫教育推進会議（有識者会議）の設置により、モデル校間での情報共有、成果の検証、今後の推進方策等について助言を得ながら、検討することができた。

○新たにモデル校を希望する地区や小中一貫教育導入について研究する地区が増えた。

(4) 今後の取組予定

○市町村全域に小中一貫教育を推進するための方策を研究し、取組を支援する。

○小中一貫教育推進研究協議会とコミュニティ・スクール推進研究協議会を併せて実施し、地域と共にあるづくりの視点に立った取組を推進していく。

○「神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック」を更新し、モデル校地区での成果や課題を盛り込み、県内他地区での推進に役立てる。

○総合教育センターと連携し、研究の充実を図ると共に、小中一貫教育推進のための研修を実施する。

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

<p>○モデル地区(中学校区)の小中一貫教育推進をサポートすると共に、その取組の成果と課題を検証・分析し、先進地区の視察により得た知見とともに、県内の他地区に波及していく。</p> <p>○今後、県として小中一貫教育を推進する市町村教育委員会を継続的に指導・助言、援助していくために、細部におたる現状の分析、(人的支援、物的支援を含めた)県としての支援の在り方、市教育委員会や中学校区の組織体制づくり、県や市町村の研修体制等について整理していく。</p>

(2) 取組 I の実施状況 (平成29年度)

4月	<p>小中一貫教育サポートデスク設置 箱根一貫教育推進運営委員会 (4/24) 有馬中学校区小中一貫教育実施委員会 (4/26) 第1回全県指導主事会議 小中一貫教育部会 (4/28)</p>
5月	<p>小中一貫モデル校二宮町訪問 (5/15) 小中一貫モデル校愛川町訪問 (5/25)</p>
6月	<p>新任校長研修講座 (6/5) 有馬中学校区小中一貫教育実施委員会 (6/15) 小中一貫教育校連絡協議会 (第1回) (6/19) 新任教頭研修講座 (6/21、22、29、30)</p>
7月	<p>小中一貫推進会議 (第1回) (7/10) 有馬中学校区小中一貫教育実施委員会 (7/25)</p>
8月	<p>中地区校長会教育研究会 (8/3) ・ 県央地区校長会教育研究会 (8/3) 二宮町小中一貫カリキュラムワーキンググループ会議 (8/8) 全県小学校教育課程研究会 (8/17) ・ 全県中学校教育課程研究会 (8/21) 北中学区研修 (小中一貫教育) (8/24) 小田原市立新玉小研修 (8/25)</p>
9月	<p>箱根一貫教育運営推進委員会 (9/4) 小中一貫教育校連絡協議会 (第2回) (9/8) 有馬中学校区小中一貫教育実施委員会 (9/20)</p>
10月	<p>愛川町小中一貫会議 (10/27)</p>
11月	<p>福井教育フォーラム参加1名 (11/2・3) 小中一貫教育校連絡協議会(第3回) (11/13) 山口県学力向上フォーラム参加2名 (11/14・15) 小中一貫教育小規模全国サミットin奈良参加1名 (11/17・18) 学力向上フォーラム (秋田市) 参加2名 (11/17・18) 実地調査 (海老名市門沢橋小学校) (12/24) 箱根一貫教育会議 (11/29)</p>
12月	<p>広島大学附属三原学校園幼小中一貫教育セミナー参加2名 (12/1・2) 松田町小中一貫教育説明 (12/13) 小中一貫教育推進会議 (第2回) (12/19) 愛川町小中一貫会議 (12/21) 有馬中学校区小中一貫教育実施委員会 (12/25)</p>
1月	<p>アンケート作成配付(モデル地区) 第3回全県指導主事会議 小中一貫教育部会 (1/19) 小中一貫教育全国サミットin京都参加3名 (1/25・26)</p>

2月	アンケート集計 箱根一貫教育運営推進委員会 (2/15) 小中一貫教育校連絡協議会 (第4回) (2/16)
3月	神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック改訂 アンケート分析 平成29年度成果と課題のまとめ 完了報告書等作成・提出 有馬中学校区小中一貫教育実施委員会 (3/26)

(3) 取組の成果

<p>○「小中一貫教育ガイドブック」を県教育委員会ホームページに掲載することにより、新たに、小中一貫教育導入に向けて、研究を進める市町村が増えた。</p> <p>○県外の先進地区を視察し、取組の成果や課題についての知見を得、それを集約して、小中一貫教育校連絡協議会や小中一貫推進会議の中で、情報提供することを通して、今後の市町村の推進に役立てることができた。</p> <p>○小中一貫教育校連絡協議会を4回実施し、モデル校間での情報共有や検証のためのアンケート項目等について話し合いを実施し、取組の中で知見を生かすことができた。</p> <p>○小中一貫教育推進会議(有識者会議)を2回実施し、モデル校や県内での今後の小中一貫教育の推進方策等について検討し、そこで得た知見を、連絡協議会でモデル校に情報提供することができた。</p> <p>○神奈川県小中一貫教育推進ガイドブックを新任校長研修や新任教頭研修、校内研修会の資料として活用し、意識付けを図った。</p> <p>○モデル地区での共通アンケートを実施し、3年終了時点での、教職員、児童・生徒、保護者、地域の方の小中一貫推進に関する意識や認識についての情報を得ることができた。今後前年度の調査と比較し取組の成果と課題を明らかにしていく。</p>
--

(4) 今後の取組予定

<p>○パイロット地域を2地区指定し、市町村全域で小中一貫教育を推進する方策を研究する。</p> <p>○県外や県内の先進地区を視察しその取組の成果や課題を本県の取組に生かす。</p> <p>○小中一貫教育研究協議会とコミュニティ・スクール研究協議会を併せて実施し、地域と共にあるづくりの視点に立った取組を推進していく。また、各市町村の取組や成果、課題についての情報を収集、分析し、県内市町村に発信する。</p> <p>○サポートデスクを引き続き実施し、県の小中一貫教育の推進を図る。</p> <p>○「神奈川県小中一貫教育推進ガイドブック」を改訂し、モデル校地区での成果や課題をより盛り込み、県内他地区での推進に役立てる。</p> <p>○総合教育センターと連携し、研究の充実を図ると共に、小中一貫教育推進のための教職員の研修を実施する。</p>
--

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	海老名市教育委員会	
Ⅱ-2	秦野市教育委員会	
Ⅱ-3	真鶴町教育委員会	
Ⅱ-4	二宮町教育委員会	
Ⅱ-5	愛川町教育委員会	

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ-1

1. 市町村教育委員会等の名称 : 海老名市教育委員会

住所	: 神奈川県海老名市勝瀬175-1
代表者職・氏名	: 教育長 伊藤 文康

2. 取組の名称 : 「授業づくりと地域連携による海老名型小中一貫教育」

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

モデル中学校区（小学校3校、中学校1校）の研究を進めるとともに、平成29年度より市内全小中学校（小学校13校、中学校6校）小中一貫教育実施を開始し、研究を進める。
 「各中学校区の児童生徒の実態や地域の特性を生かした9年間の教育課程」をテーマとし、児童・教職員の交流・共同研究とともに地域との連携による小中一貫教育をめざす。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	(モデル地区) 実施委員会・担当者会議（各1回）、乗入授業開始 (各中学校区) 実施委員会（1回）
5月	(モデル地区) 実施委員会・担当者会議（各1回）、生活アンケートの実施 (各中学校区) 実施委員会・担当者会議（各1回） 各中学校区の小中一貫教育実施計画作成 (市全体) 小中一貫教育校長協議会
6月	(モデル地区) 実施委員会・担当者会議（各1回） (各中学校区) 実施委員会・担当者会議（各1回） 小中学校連携授業参観 (市全体) 第1回小中一貫教育担当者会議
7月	(モデル地区) 実施委員会・担当者会議（各1回） (各中学校区) 実施委員会・担当者会議（各1回）
8月	(モデル地区) 中学校区教職員合同研修会
9月	(モデル地区) 実施委員会・担当者会議（各1回）、校内研究への教員交流開始 (各中学校区) 実施委員会・担当者会議（各1回） (市全体) 海老名市小中一貫教育リーフレット作成
10月	(モデル地区) 実施委員会・担当者会議（各1回）、小中学校交流事業 (各中学校区) 実施委員会・担当者会議（各1回） (市全体) 小中一貫教育校長協議会 海老名市小中一貫教育リーフレット配布（家庭・地域への周知）

11月	(モデル地区) 実施委員会・担当国会議 (各1回) (各中学校区) 実施委員会・担当国会議 (各1回) (市全体) 教育プラン推進委員会
12月	(モデル地区) 実施委員会・担当国会議 (各1回) (各中学校区) 実施委員会・担当国会議 (各1回)
1月	(モデル地区) 実施委員会・担当国会議 (各1回) (各中学校区) 実施委員会・担当国会議 (各1回) (市全体) 教育プラン推進委員会
2月	(モデル地区) 実施委員会・担当国会議 (各1回) 児童生徒・教職員等アンケート実施、分析 (各中学校区) 各中学校区小中一貫教育実施内容のまとめの作成 実施委員会・担当国会議 (各1回) 小中学校連携授業参観 (市全体) 小中一貫教育校長協議会 第2回小中一貫教育担当国会議
3月	(モデル地区) 実施委員会・担当国会議 (各1回)、小学生の中学校体験入学 (各中学校区) 実施委員会・担当国会議 (各1回)

(3) 取組の成果

<p>○市全域での小中一貫教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育校長協議会…各中学校区の情報交換、市全体の取組の協議 ・小中一貫教育実施委員会…小中一貫教育目標の策定、実施計画作成 ・中学校教員による乗り入れ授業…学びのつながりづくり、児童理解 ・教職員合同研修会…小中一貫教育の共通理解 ・校内研への相互参加…お互いの授業づくりの理解、学びのつながりづくり ・児童生徒の交流活動…中学生活のイメージづくり、自己有用感の育成 ・学校評議員、学校応援団交流…地域の特色を生かした小中一貫教育づくり

(4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の充実について、教職員、保護者、地域の理解の共有を図り、小中一貫教育の輪を地域全体に広げていく ・各中学校区の特色を活かした小中一貫教育の内容の充実を図る。 ・小中の学習内容の系統性を理解し、効果的な学びの接続を図ることや、学習習慣の定着のためのつながりのある方策を作る。

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 2

1. 市町村教育委員会等の名称 : 秦野市教育委員会

住所 : 神奈川県秦野市桜町一丁目3番2号

代表者職・氏名 : 秦野市教育委員会教育長 内田賢司

2. 取組の名称 : 秦野市幼小中一貫教育の推進

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

本市では平成23年度より市内全ての小中学校で幼小中一貫教育に取り組んできた。平成25年度より一中学校区に重点モデル研究校として委託し、平成27年度は秦野市幼小中一貫教育研究発表会を開催する中で、「授業改善」「地域との連携」について、広くその成果を市全体で共有してきた。今年度は、この成果を生かし、授業力の向上を目指し連続性・継続性を意識した授業研究を小中で共に進め、発達段階を踏まえて共通の指導方法等を工夫し、学習意欲の向上を図ることをねらいとしてきた。特に、小中の「学び方」をそろえ、子どもの主体的な学びを支えていけるよう合同研修会、授業研究を実施することで、小中学校の教職員が共通理解を図りながら子どもの成長した姿が成果として現れるように取り組んでいる。また、中学校・高等学校経験教諭を小学校に配置し、教育内容の系統性を重視した教育活動を行うことにより、児童の学習意欲の向上を目指し、学力の向上につなげてきた。

さらに、このような取組の内容について、市の幼小中一貫教育に関するリーフレットを作成し、保護者、地域へ広く周知を図り、一体となった取組を推進することとした。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	・幼小中一貫教育リーフレットの配布（全園校家庭数・子どもを育む懇談会等地域の方）【保護者や地域向けに秦野市における取組についてのリーフレット】 ・小中一貫教育臨時指導員開始【小学校研究校1校に指導員を配置し、高学年教科担当制（理科）の実施について研究する】
5月	・第1回幼小中連絡会開催（各中学校区ごとに開催）【園校が集まり、情報共有や方向性を確認し、各中学校区の一貫教育を推進していく】 ・小中一貫教育臨時指導員開始【小学校研究校1校に指導員を配置し、高学年教科担当制（外国語活動）の実施について研究する】
6月	・第1回子どもを育む中学校区懇談会開催（各中学校区） ・幼小中一貫教育リーフレットの説明【子どもたちにとって安心安全な地区づくりを推進するため、各校PTA総会や子どもを育む中学校区懇談会にて】
7月	・幼小中一貫教育合同研修会開催【講師を招聘し幼小中一貫教育の視点での研修会を行う】

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究発表会開催（教育委員会）【教職員や市民に向けて、教育研究所調査研究部会、自主研究レポート、子どもを育む中学校区懇談会の研究成果や活動内容を広く周知し発表する】 ・幼小中一貫環境教育研修講座開催（教育委員会）【市内園校の教職員が一貫性、連続性のある環境教育を推進できるように見識及び活動の進め方についての理解を深める】
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回幼小中連絡会開催（各中学校区）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区で公開授業研究（幼小中教職員参加）などを開催 ・第2回子どもを育む中学校区懇談会開催（各中学校区）
11月	
12月	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中一貫教育合同研修会開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回幼小中連絡会開催（各中学校区） ・教科担当制研究校アンケート実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野市幼小中一貫教育リーフレット印刷（新年度に各家庭、地域へ配布） ・教科担当制研究校アンケート結果の分析

（3）取組の成果

<p>①平成29年度は県の推進モデル校において小中の「学び方」をそろえ、子どもの主体的な学びを支えていけるよう合同研修会、授業研究を重ねた。</p> <p>②「幼小中一貫教育臨時指導員」において、中学校・高等学校経験教諭による小学校高学年への細やかな理科の授業を行うことで、中学校への移行を円滑にし、小中学校の教職員が共通理解を図りながら子どもの成長した姿が成果として現れるように取り組んだ。</p> <p>③幼小中一貫教育の取組について、市の幼小中一貫教育リーフレットを配付した。</p>

（4）今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ①幼小中一貫教育の広報の充実（各中学校区リーフレット再配付） ②教科担当制の研究継続及び学びのスタイルの共有

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－３
------	-----

1. 市町村教育委員会等の名称 : 真鶴町教育委員会

住所	神奈川県足柄下郡真鶴町岩 172-8
代表者職・氏名	教育長・牧岡 努

2. 取組の名称 : 12年間の子どもの育ちの連続性を大切にした教育の推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

「**確かな学力の向上（真鶴スタンダードの確立）**」…町の教育基本方針に定めた「授業に関する真鶴スタンダード（落ち着いた授業、学び合う授業、確かな学びのある授業の実現）」の確立をめざして、学校間相互の授業参観や協議への参加や、小・中学校教員が互いの学校で指導を行う交流授業の実践を図ることにより、小・中学校9年間での学びの連続性を効果的にとらえた授業改善及びカリキュラムの検討を行う。また、全国学力・学習状況調査の結果を小・中学校の教員が合同で分析することにより、授業・教育活動の具体的な改善策や連続性をとらえた取組の検討と実践を図る。さらに、ICT機器の活用方法についての実践研究をとおして、児童生徒のコミュニケーション力の向上やグループ学習での効率的な学び合いの実現に向けた具体的な活用方法を探り、学習効果の向上を図る。

「**豊かな心の育成**」…小中及び関係機関との連携を図る会議を開催するとともに、小中児童生徒指導担当及び教育相談担当相互の連携体制を構築し、いじめ、不登校等の課題に適切に対応できる連携体制をつくる。

「**地域を学び、地域と連携した教育活動の充実**」…ふるさと教育・防災教育の分野での小中一貫連続カリキュラムの実践を行い、連続したキャリア教育の実践を図る。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	○まなづるっ子自立支援コンサルテーション① (不登校・個別支援が必要な児童生徒への対応についての情報交換及び協議等)
5月	○幼・小・中合同研究推進委員会①（研究計画・内容・組織等の確認、日程調整） ○幼・小・中合同研究会（園・学校の研究内容、テーマ等の共有） ○ICT教育活用推進プロジェクト担当者研究会① ○まなづるっ子サポート連絡会議①（いじめ問題についての情報共有・協議） ○小・中学校児童生徒指導担当教諭連絡会議① ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション②
6月	○町救急法研修会（幼・小・中の教員参加によるアレルギー対応等の研修） ○防災担当者会議①（真鶴町防災教育カリキュラムについての確認） ○小・中一貫合同授業研究会（小学校授業研究会全体会）①・② ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション③

7月	○幼・小・中合同研究推進委員会②（2学期以降の内容確認） ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション④
8月	○小・中合同研究全体会（新学習指導要領についての学習会） ○児童生徒指導研修会（いじめ問題に係る講話と演習） ○ICT教育活用推進プロジェクト教職員研修会①・② ○小学生部活動体験
9月	○ICT教育活用推進プロジェクト担当者研究会② ○学力調査検証委員会①（全国学力学習状況調査・神奈川県学習状況調査の結果分析） ○小・中一貫合同授業研究会（小学校授業研究会全体会）③ ○小・中一貫合同授業研究会（小学校授業研究会全体会）④ ※講師招聘（早稲田大学・小林宏己教授）
10月	○学力調査検証委員会②（結果分析から授業・教育活動改善に向けた具体的取組の検討） ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション⑤ ○小・中一貫合同授業研究会（小学校授業研究会全体会）⑤ ○中学校教員による交流授業の実践（家庭科）
11月	○まなづるっ子サポート連絡会議②（いじめ問題についての情報共有・協議） ○小・中学校児童生徒指導担当教諭連絡会議② ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション⑥ ○小・中一貫合同授業研究会（中学校公開授業研究会）① ○小・中一貫合同授業研究会（小学校授業研究会全体会）⑤・⑥ ○小・中一貫合同授業研究会（小学校授業研究会全体会）⑦ ※講師招聘（早稲田大学・小林宏己教授）
12月	○幼・小・中合同研究推進委員会③（研究のまとめについて） ○ICT教育活用推進プロジェクト担当者研究会③ ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション⑦ ○中学校教員による交流授業の実践（特別活動）
1月	○小学校教員による交流授業の実践（書写） ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション⑧ ○防災担当者会議②（真鶴町防災教育カリキュラム実践の検証）
2月	○まなづるっ子サポート連絡会議③（いじめ問題についての情報共有・協議） ○小・中学校児童生徒指導担当教諭連絡会議③ ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション⑨ ○中学校教員による交流授業の実践（外国語活動） ○中学校教員による交流授業の実践（理科）
3月	○小・中合同研究推進委員会④（平成29年度振り返り、平成30年度に向けて） ○まなづるっ子自立支援コンサルテーション⑩

(3) 取組の成果

<p>○「授業に関する真鶴スタンダード（落ち着いた授業、学び合う授業、確かな学びのある授業の実現）」を基本とした小・中学校教員の協働による授業研究の推進により、それぞれの発達段階に応じた児童生徒の主体的・協働的な学習活動の充実が図られた。</p> <p>○小・中学校における児童生徒指導及び教育相談の連携を図ることにより、いじめ問題や不登校など児童生徒一人ひとりが抱える課題や悩みに関する小・中学校間での情報共有や、小・中9年間を継続して対応するチーム支援体制の充実が図られた。</p> <p>○ICT機器を活用した教育の推進（担当教員による校内体制の構築と研修機会の充実）を図ることにより、教育活動におけるICT機器の活用場面の増加につながった。また、タブレットを使用した学習成果の発表や、プログラミングの体験学習など、児童生徒がICT機器にふれ、活用する学習場面が設定され、教育活動の充実が図られた。</p>
--

(4) 今後の取組予定

幼稚園を含めた12年間の連続性を生かした教育として、幼小中一貫教育についての実践研究に継続して取り組んでいく。特に重点として取り組むことは次の内容である。

- 「一貫教育の効果を発揮した児童生徒の主体的・対話的で深い学び」を実現をする、授業・教育活動の改善に向けた実践研究の推進
- 幼小中一貫教育活動におけるICT機器の効果的な活用を追究する教育研究の推進
(コミュニケーション力向上における効果、グループ活動等学び合いの充実、小中学校間の交流活動の充実に向けた効果等の検証)
- カリキュラムマネジメントによる、ふるさと教育を中心とした9年間を見通す段階的なキャリア教育の推進
- 諸課題の低年齢化に対応した、一貫した児童生徒指導体制及び教育相談体制の確立と実践

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 4

1. 市町村教育委員会等の名称 : 二宮町教育委員会

住所 : 神奈川県二宮町二宮961番地

代表者職・氏名 : 教育長・府川陽一

2. 取組の名称 : 小中一貫教育研究事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

- ・いわゆる「中1ギャップ」の解消
- ・外国語活動の教科化を見据えた小・中連携による英語教育の推進
- ・9年間を見通した系統性のあるカリキュラム作成による児童・生徒の学力や学習意欲の向上
- ・小学校高学年における学習内容の高度化への対応。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	<ul style="list-style-type: none">●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導（5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり）●カリキュラムづくり（外国語活動・英語教育担当者会において趣旨説明）（教務担当者会において、各教科・領域等の担当（ワーキンググループ）のメンバーを検討）
5月	<ul style="list-style-type: none">●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導（5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり）●カリキュラムづくり（WGのメンバーを検討）
6月	<ul style="list-style-type: none">●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導（5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり）●カリキュラムづくり（WGを組織し代表者を決定）●小中一貫カリキュラムワーキンググループミーティング（研究の概要説明、先行事例の研究）●小学校教員による中学校への乗り入れ指導（教頭間の情報交換と打ち合わせ）
7月	<ul style="list-style-type: none">●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導（5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり、校内研修会）●カリキュラムづくり（外国語活動・英語教育担当者会において、先進地区のカリキュラム研究や身に付けたい力等の確認）

	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校教員による中学校への乗り入れ指導 (教頭間の情報交換と打ち合わせ)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (小学校教員との授業づくり、校内研修会) ●カリキュラムづくり (小中一貫教育研修会においてカリキュラムづくりについての講演会) (全教員による先進地区カリキュラムの研究、身につけてたい力等の確認) (WG代表者会における各教科等の進捗状況の確認) ●小学校教員による中学校への乗り入れ指導 (教頭間の情報交換と打ち合わせ)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり、校内研修会) ●小学校教員による中学校への乗り入れ指導 (教頭間の情報交換と打ち合わせ)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり) ●小学校教員による中学校への乗り入れ指導 (小学校教諭の中学校での授業参観や話し合い等)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり) ●小学校教員による中学校への乗り入れ指導 (小学校教諭の中学校での授業参観や話し合い等) ●カリキュラムづくり (WG代表者による進捗状況の確認)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり) ●小学校教員による中学校への乗り入れ指導 (小学校教諭の中学校での授業参観や話し合い等) ●カリキュラムづくり (WG代表者による小学校・中学校学習指導要領解説小中つながり抜粋資料の作成)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり) ●カリキュラムづくり (WG代表者による小学校・中学校学習指導要領解説小中つながり抜粋資料の作成)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり) ●カリキュラムづくり (WGごとに小学校・中学校学習指導要領解説小中つながり抜粋資料の説明会開催)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校英語科教員による小学校への乗り入れ指導 (5・6年生の授業、小学校教員との授業づくり、校内研修会) ●カリキュラムづくり (WGごとに小学校・中学校学習指導要領解説小中つながり抜粋資料の説明会開催)

(3) 取組の成果

小中一貫カリキュラムWGの活動を通して、小学校と中学校の教員が顔を合わせる機会が増加し、これまで以上に小・中学校教員の交流があり、相互理解の良い機会になった。また、小学校・中学校学習指導要領解説小中つながり抜粋資料の作成過程で、これまで意識されていなかった縦のつながりについて理解を深め、小学校・中学校それぞれの具体的な学習内容や児童・生徒のつまずきについて情報共有できたことは、大きな成果であった。これらの活動を通して、教員の中で、中1ギャップ解消に向けた意識が高まった。また、小中一貫教育英語科指導研究員の小学校への乗り入れ指導は、小学校の外国語活動・外国語科の実施に向けて、今後の方向性を確認させ、学級担任の意識を変える良い機会になった。さらに、小学校教員の乗り入れ指導は、中学校の指導法等について理解させ、小学校での指導に生かすことのできる良い機会になった。

(4) 今後の取組予定

今後は、WGでの活動を充実させ、カリキュラムの完成に向けて取り組む。特に重点化を図る教科等に据えた外国語活動・外国語、算数・数学については、平成30年度中、その他の教科等については平成31年度中の完成を目指す。また、WG内での授業参観等を通しての交流を充実させ、異校種間の相互理解を図ることにより、9年間を見通した指導の定着を図りたい。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－５
------	-----

1. 市町村教育委員会等の名称 : 愛川町教育委員会

住所	神奈川県愛甲郡 愛川町角田 2 5 1 - 1
代表者職・氏名	教育長 佐藤 照明

2. 取組の名称 : 夢と感動にあふれた魅力ある学校づくりを目指した小中一貫教育

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

小・中学校間の円滑な接続を図り、児童・生徒の学力向上および中1ギャップを解消すること等を目的に、愛川町の全小・中学校において小中一貫教育を行う。
 平成29年度から、小中一貫教育教科別研究会を開催し、全校で「9年間を見通した教育課程」の編成について検討するとともに、ICT機器の整備を進め、授業のビジュアル化による「わかる授業」の実践を小・中学校で進める。
 また、モデル中学校区（中学校1校、小学校2校）を設置し、兼務発令により中学校英語科教員が小学校でも英語教育の授業等を実施し、本町の特色ある英語教育「グローバル科」の導入に向けての研究をスタートする。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	・第1回 小中一貫教育連絡会
5月	・学区合同 緊急引き渡し訓練
6月	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 小中一貫教育検討会 ・10日 小中一貫教育研究会（半原小第1回） 講師：鈴木先生 ・10日 小中一貫教育研究会（田代小第1回） 講師：横井先生 ・12日 小中一貫教育研究会（愛川中第1回） 講師：伊住先生
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・3日 小中一貫教育教科別研究会（算数・数学、理科） ・7日 第1回 小中一貫教育協議会 ・7日 小中一貫教育教科別研究会（国語） ・23日 小中一貫教育講演会 講師：貝ノ瀬先生 ・23日 小中一貫教育講演会 講師：黒岩先生 ・23日 小中一貫教育研究会（田代小第2回） 講師：村松先生 ・24日 小中一貫教育研究会（田代小第3回） 講師：横井先生

	<ul style="list-style-type: none"> ・25日 小中一貫教育研究会（田代小第4回） 講師：米谷先生 ・25日 小中一貫教育研究会（半原小第2回） 講師：鈴木先生 ・28日 小中一貫教育研究会（半原小第3回） 講師：鈴木先生 ・28日 小中一貫教育教科別研究会（社会） ・29日 小中一貫教育講演会 講師：田村先生
9月	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・3日 第2回 小中一貫教育協議会 ・第2回 小中一貫教育連絡会 ・第2回 小中一貫教育検討会 ・魅力ある学校づくり優良校研修視察 ・23日 小中一貫教育研究会（田代小第5回） 講師：村松先生
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・4日 小中一貫教育研究会（半原小第4回） 講師：村松先生 ・中学2年生職場体験学習
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・4日 小中一貫教育研究会（半原小第5回） 講師：横井先生 ・11日 第3回 小中一貫教育協議会 ・20日 小中一貫教育研究会（田代小第6回） 講師：米谷先生
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回 小中一貫教育検討会 ・新入生保護者説明会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・7日 小中一貫教育研究会（田代小第7回） 講師：村松先生 ・7日 小中一貫教育研究会（愛川中第2回） 講師：伊住先生 ・28日 第4回 小中一貫教育協議会 ・小学校6年生中学校訪問 ・小中一貫教育リーフレット作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生情報交換
年間を通しての取組	
<p>（モデル中学校区：愛川中学校区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼務発令等による相互乗り入れ授業 中→小 英語活動（週2日） 小→中 道徳（年7回） ・小中一貫教育コーディネーター兼後補充教員の派遣 4時間×60日 <p>（全ての中学校区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会相互参加（年3回程度） ・兼務発令による可能な範囲での相互乗り入れ授業 ・小中教員交流研修 ・児童・生徒の交流行事 ・小中一貫教育リーフレット作成、配布 <p>（愛川中原中学校区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を進めながら、学びづくりの研究 <p>（愛川東中学校区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を進めながら、コミュニティ・スクールの研究 	

(3) 取組の成果

小中一貫教育モデル中学校区（愛川中学校区）の取組の成果として、小中一貫教育講演会・研修会を実施し、小中一貫教育の研究を進めた。

また、兼務発令等による相互乗り入れ授業を実施した。小学校における英語活動や中学校における道徳を小中一貫教育コーディネーター兼後補充教員がコーディネートした。さらに、愛川町のめざすグローバル科の導入に向けての研究をした。

町全域での取組として、小中一貫教育教科別研究会を実施し、「9年間を見通した教育課程」の設定に向けて研究した。あわせて、ICT機器の活用が可能な学習環境の整備に伴い、授業改善についての情報共有の場を設定した。さらに、各中学校区のグランドデザインの作成をすすめ、各中学校区の広報リーフレットを作成した。今後、地域との連携に生かしていく。

その他に、小中教員の交流研修を実施し、教員の相互理解を進め、児童・生徒の交流行事を通して、児童・生徒の相互理解をすすめた。

モデル中学校区以外の取組として、かながわ学びづくりを愛川中原中学校区ですすめ、コミュニティ・スクールについて愛川東中学校区ですすめた。

(4) 今後の取組予定

○モデル中学校区（愛川中学校区）の取組予定

- ・小中一貫教育講演会・研修会の実施…さらなる小中一貫教育研究
- ・兼務発令による相互乗り入れ授業…グローバル科研究、教育課程の編成
- ・小中一貫教育コーディネーター兼後補充教員の派遣
- ・児童・生徒の交流行事

○町全域での取組

- ・「9年間を見通した教育課程」の設定
- ・ICT機器活用が可能な学習環境の整備
- ・各学区広報リーフレットの配布
- ・小中教員交流指導

○かながわ学びづくり（愛川中原中学校区）の取組の成果の普及

○コミュニティ・スクール（愛川東中学校区）の取組の成果の普及